



Book Review

評者：藤井徹也

豊橋創造大学保健医療学部看護学科教授

論文・レポートが変わる！

看護学生のための科学的作文レッスン

著：倉茂好匡／本体：1,900円＋税

発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



学生への論文作成指導を振り返るきっかけともなる一冊

専門職を目指す看護学生にとって、科学的な文章を書けるようにトレーニングすることは、大切なことです。しかし、高等学校までの国語では科学的作文の作成に関してほとんど指導されることはなく、看護学生は、基礎教育課程でレポート課題や卒業研究などの論文作成をとおして、その書き方を学びます。本書は、その手助けになる1冊です。

第1章では、文章の書き方の基本が紹介されています。小・中学校で学ぶ『文』とは、なにかから始まり、「。(句点)」、「。(読点)」の説明、「主語」「述語」の確認の仕方、さらに、「補助語」「助詞」「連用修飾語」「連体修飾語」などの活用方法が示されています。シンプルな例題を用いて説明されており、学生にはとても理解しやすい内容です。たとえば、日常的に目にする「風疹の流行が広がっている」という表現は、厳密には「風疹の患者数が増加している」とすべきである、などの例題が取り上げられています。

また、わかりやすい文にするために「文の構造を調べ、単純な構造の文に直す」ことが紹介されており、その視点で、自分の書いた文・文章を読み返すことの大切さを指摘しています。「文・文章の読み返し」については、教員も日ごろから学生に指導していることだと思います。しかし、読み返しの視点やその方法まで含めて指導しているのでしょうか？ そうした気づきを与えてくれる本書を、教員も一読すべきと考えます。

第2章では、段落の作り方が紹介されています。著者が実際に指導した学生の論文を例に取り、その文章の問題点と改善点について順を追って説明しています。学生にとっては、同じ立場である学生が書いた文章を題材としているため、身近で理解しやすいと考えます。

第3章は、第2章で取り上げた論文の「目的」「方法」「結果」「考察」の記述方法を説明しています。第2章同様に、冒頭で問題点を示し、改善策とその理由をていねいに説明しています。特に、「結果」で図表を用いる際の文章の書き方の解説は必見です。

小生は、本書の「はじめに」を読み始めて数行で、これまでの論文作成指導が適切であったか、と自らを振り返りました。そこには、科学的な作文で必要なのは「誰がどのように読んでも、一通りの意味にしか読み取ることができない」こと、と述べられています(p.iii)。これまでの指導は研究内容に主眼を置き、「主語」「述語」の使い方などの細かな指導までできていなかった、と反省しました。

本書には、文章作成指導のよりよい方法を学べるだけでなく、教員自身が日ごろから適切な文章を作成できているかどうかを振り返るのに最適な内容が満載です。学生のみならず、教員自身の学びなおしにもお勧めしたい一冊です。